

日仏文化交流90周年関連行事から

1/31 大使館公邸で記念式典

1月31日東京南麻布のフランス大使公邸にて、日仏文化協力90周年、日仏会館創立90周年の記念式典が開催され、参列してきました。1924年当時の駐日大使ポール・クロードル氏と渋沢栄一氏とが中心となり日仏会館を立ち上げたことによるものです。

クリスチャン・マセ駐日大使、松浦日仏会館理事長の挨拶があり、日仏会館総裁であられる常陸宮殿下のお祝いのお言葉がありました。マセ大使は、今後も今まで以上に日仏の文化協力に力を注いでゆきたいこと、各地の日仏協会の協力を得たい旨のお話でした。

会場には、文芸講演会でおなじみの柏木隆雄先生も日本フランス語フランス文学会会長というお立場で列席されておりました。参加者は、約200名ほど、日仏会館の関係者が多くみられ、なごやかな雰囲気の中、フランス料理を堪能した2時間でした。(滝澤 記)

2/15 ブロソー総領事 フランスの文化政策を語る

◆ 京都日仏協会の文化事業

日仏文化交流90年にちなみ、2月15日京都日仏協会主催の文化行事がアンスティテュ・フランセ関西(旧日仏学館)で開催され、シャルランリ・ブロソー Charles-Henri BROSSEAU 総領事が「日本におけるフランスの文化政策1924~2914」と題して講演をおこないました。

このなかでブロソー氏は、ルイ14世時代にさかのぼるフランス外交の文化的側面から説きおこし、その特徴として、国家の関与・支援、言語をはじめとするフランス文化を外に広める努力、文化の多様性などを挙げられました。そして特に日本との文化交流について、クロードル、渋沢ほか草創期の多くの人の努力で基礎が築かれとことから、戦前、戦中、戦後の日仏文化交流の歩みを概説、最近のフランス語の勢いの衰退、日本人留学生の減少、仏政府の関連予算の減少傾向などを懸念され、今後インターネット時代における日仏文化交流の発展のために、フランス文化を広めるといふ姿勢のみならず、パートナーシップ、相互理解が必要ではないかと締めくくられました。

ブロソー総領事：1968年パリ生まれ、国立政治学院を卒業、立教大学に給費留学後フランス外務省に入省。ニューヨークの国連本部、日本大使館、外務省東南アジア課長などを歴任され、昨秋から現職に。(井土 記)

なお、90周年を記念する多彩な事業については、アンスティテュ・フランセの「90周年プログラム」(PDF)でご覧になれます。

留学生との交流

◆ フランス人留学生 歓迎パーティー開催 12/13

三重大学はフランスの5大学と、主としてテクノロジーの分野で交流していて、現在6名のフランス人が留学しています。12月13日、三重日仏協会の主催で、留学生歓迎パーティーが開催されました。会場はラ・フルール(会員の竹屋氏経営)、ワインと料理を楽しみながら交流を深めました。二次会は近くの居酒屋へ。留学生6名が全員参加してまた大いに盛り上がりしました。



ラ・フルール

12/15 ◆ 三重大学国際交流パーティー



三重大学

三重大学国際交流センターから招待を受け、12月19日滝澤、矢野の両名で国際交流ワークショップとパーティーに参加しました。現在、180名の留学生が三重大学で学んでおり、ワークショップでは、チーム別に国際交流の諸問題が提示され、熱のこもった議論が展開されていました。彼らのプレゼン能力の高さに感心しました。パーティーには300名をこす参加者があり、フランス人留学生の皆さんとも一週間ぶりに再会しました。各国の民族芸能のパフォーマンスが次々と披露され、ふと三重にいることを忘れませんでした。(矢野 隆嗣)

消息 新年に寄せられた祝詞から

● フィリップ・ジャンヴィエ・カミヤマ前京都総領事より

本会の昨年度総会行事にご夫妻で参加いただき強い印象を残されたジャンヴィエさんは、昨秋インドのボンディシェリの総領事として赴任されています。

Email:consulat.pondichery-fslt@diplomatie.gouv.fr

● パリで活躍中のピアニスト・伊藤隆之さん(四日市市出身)より

新年のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年はお陰様でフランスのファビウス外相の企画「ノルマンディー印象派フェスティバル」で日本大使館のお力を頂き、ドビュッシーの演奏と講演をフランスの3都市で行うことができました。

今年は5月5日にサントリーホールでチェロの林峰男氏とジョイント、9月中旬には地元三重県四日市で、先のフェスティバルの内容を日本語で再演することになりました。

どうぞよろしくお祈り申し上げます。